



龍馬に学べ！

幕末に奔走した若者たち

山田 真理(2-3)

「昔の人たちはすごいな」とテレビの歴史番組や、小説を読んでいるとよく思う。どの番組、人物を見ても現代人の同年代よりも精神年齢が高いように思えるのだ。それはもちろん現代が豊かで、昭和以前からすれば圧倒的に便利になったから言えることであり、贅沢な見方だと思う。私のすごいと思える偉人の一人に坂本龍馬がいる。正直に書くと、高校になるまで龍馬が具体的に何をして、どんな功績を残したかはよく知らなかつた。ただ名前を知つていたというだけで、今思うと少しは読んでおくべきだったかな。

既に、この時龍馬や開国をしようとしていた人々は武力ではなく話し合いや和解によって日本を変えようとしていたのである。龍馬に賛同し、日本を変えようとした人物はたくさんいたが、中には私と同年代の人もいたと思う。必死に勉強して、無いモノを生

られたものとされる。愛用はしていただが、このピストルで人を襲つたとか、戦いに使つたなどはあまり聞いたことがなかったので不思議だつた。そういういえば龍馬自身が戦つて人を殺したシーンは少ないなど思つた。この小説でも龍馬が真剣で人を斬つたり、怒つて自ら手を上げる場面は少ないので、確かに剣の腕はすさまじく強いのだが、武力行使には出なかつたのである。当時はまだ剣一筋の人も多かつただろう。

み出そつとした人も多いのだろう。それは現代でも可能だが、自國を変えようとまでは思えない。龍馬のいた時代には決して戻れないが、心構えを見習うことはできる。私は



九里学園高等学校員印刷委員会
川島印刷(株) TEL 21-5511(代)

★
図書館だより
★

と感じる。

今回、私は『龍馬のピストル』という本を読んだ。タイトル通り龍馬の愛用したピス

トルを題材にした小説だつたが、龍馬の一生だけでなく、妻のお龍や西郷隆盛、新撰組の藤堂平助など、様々な龍馬の意思を継いだ人物たちも知ることができる面白い小説だ。

おすすめ!

坂本龍馬に関する本

「はじめての坂本龍馬」

齋藤

孝

著 (ちくまプリマーニュ書)

見習つてているとは言えないが、彼を見つめると何かさわやかな気持ちになれる。今年は大河ドラマもあるので、皆にも龍馬を知つてほしいと思って見習うことはできる。私は

「高杉晋作を歩く」

坂本太郎 著 (山と溪谷社)

坂本龍馬にピストルを渡したのは、高杉晋作。彼に関する名所、偉人たちを写真つきで詳しく解説しています。

「竜馬がゆく」

司馬遼太郎 著 (文藝春秋)
坂本龍馬といえば、これ！初心者も、もつと龍馬を知りたい人にもオススメです。

結果

優勝 3年4組
準優勝 3年3組
第3位 2年5組
第4位 2年4組

百人一首クラスマッチ

3の4

覚えて楽しい、百人一首。

筒井亜由実

私達三年四組は一月十四・十五日に行われた百人一首カルタ会で一位になりました。私は一つも覚えていませんでした。が、他のメンバーは句をたくさん覚えていて、上の句を聞いただけで、すぐ札を取ることができました。前日にクラス全体で練習したときに、私は二句覚えることができました。チームとしては万全の体制で試合に臨みました。

一日目に本番を迎えたとき、メンバーの一人が出られないかも知れないという事態になりましたが、無事全員で一回戦に挑みました。私が覚えていた句は残念ながら取ることができましたが、下の句まで取れなかつた札は探して取ることができました。他のメンバーがたくさん札を取り、無事勝ち進むことができました。

二日目は、有力なメンバーが三人揃い、一回戦より安心して試合に挑むことができました。順調に勝ち進み、決戦では全力で戦い、見事優勝しました。

やはり百人一首では

対戦相手がたくさん札を覚えていると、先に札を取られてしまい、手が出せなくなってしまいます。優勝を目指すクラスは、一つでも多くの札を頑張って覚えてください。

島貫 裕子

私たちちは冬休み前から百人一首を覚えようとしたのですが、二年生というのは忙しいもので、覚えることが難しかったです。必死になり暇をみつけたは覚え、あつという間に本番當日になってしましました。緊張しながら一回戦が始まりましたが、私が読み上げられて一枚取れた瞬間に私たちの緊張はゆっくりとおさまっていました。あせらず確実に取り進めることができ、一日目は勝ち残ることが出来ました。しかし、喜ぶのも束の間で、優勝という言葉が頭に浮かぶ中、私たちはまた百人一首を覚えていました。

2の5 来年こそは優勝を!!

二日目はレベルの高い戦いばかりでした。反応の速さは一日目とは比べ物にならないものでした。三回戦はギリギリで勝つことができましたが、準々決勝は手を出すことができず、試合が終了してしまいました。一言でいうと「諷かつた」という言葉につきました。最後の三位決定戦では二年四組との戦いとなりました。先生を含む相手は気迫と闘志にあふれていて、正直怖かったのですが、同学年と戦うなら絶対負けたくないという思いで戦い、その勝負に勝つことができました。そのとき、私たち四人は「来年こそは優勝を」と思いました。



三校合同カルタ会
12月12日

はじめての百人一首で…

一一二 我妻 祐弥



十二月十二日に米沢商業高校を会場にして、九里・米工・米商で三校合同百人一首カルタ会が行われました。私は、一度も百人一首をしたことがなく、ルールなども全然わからないため、最初は札を取ることができませんでした。米商生や九里の先輩方は読み手が上の句を読み始めで、すぐに「バシッ」と札を取っていました。さらに読み手を務める九里的先輩もつまることなく自然に読み上げて手を取っていました。本当にすごいと思いました。

カルタ会は午前中だけなので二ゲームしかできませんでしたが、二ゲームもすると少しは慣れてきて札を取ることで二ゲームしかできません。しかし、二ゲームもすると少しだけ慣れてきて札を取ることができます。

三校合同百人一首カルタ会を通して、私は百人一首を結構楽しむことができたので次回も参加しようかなと思っています。次回は、上の句と下の句を覚えて先輩方のようになります。読み手が上の句を読んだら、すぐに札を取れるようになります。そして、他校の人たちと仲良く楽しみながら百人一首をやっていきたいと思います。



私は、小さい頃は本が大嫌いでした。字を読むのが嫌いだったし、表現が理解できなかつたからです。しかし、小学校の担任の先生に「ゆっくりでいいから最後まで読んでごごらん」と言われ、手渡された絵本を読了してから不思議と本を読むのが楽しくなりました。みなさんも短い本でもいいので一度読了してみてはいかがでしょうか。

さて、みなさんは本を手に取るときにどんな所を見てそろはいいのかがでしようか。私は、まず表紙とタイトルを見ます。やはり、本を選ぶときには内容だけでなく、字の読みやすさや表紙の色やデザインによっては見たいという気持ちが削がれてしまいます。また、タイトルも本を選ぶのには大切ですよね。あからさまに難しそうなタイトルでは読みたいたいとは思えません。

次に私が注目するのは目次とあとがきです。目次には、おおまかなあらすじが書かれていると思います。そこを見ても興味が湧くか、読んでみたいと思うかが重要です。

あとがきには、作者がどんな気持ちで書いたのか、なぜその作品ができるのかなどが書かれているので、本編を読んだだけでは分からぬことがあります。より本編を楽しく読むことができると思います。

一冊の本を読了するという

本 喰い虫 の 弁明

私の本選び

三一五 中村 藍莉

ルを見ます。やはり、本を選ぶときには内容だけでなく、字の読みやすさや表紙の色やデザインによっては見たいという気持ちが削がれてしまいます。また、タイトルも本を選ぶのには大切ですよね。あからさまに難しそうなタイトルでは読みたいたいとは思えません。

次に私が注目するのは目次とあとがきです。目次には、おおまかなあらすじが書かれています。そこを見ても興味が湧くか、読んでみたいと思うかが重要です。

あとがきには、作者がどんな気持ちで書いたのか、なぜその作品ができるのかなどが書かれているので、本編を読んだだけでは分からぬことがあります。より本編を楽しく読むことができると思います。

一冊の本を読了するという

私の好きな

「図書館戦争」 有川 浩 著

笠原 郁

2-5 鈴木沙有理

人

主

公

私は小説をよく読む。しかも、恋愛ものである。これは本が大好き姉の影響でもあった。その中で私が特に好きなのが「図書館戦争」である。図書隊が本を守るために戦うというような話だが、その唯一の女子隊員が主人公・笠原郁である。笠原は、体力は男並みだが純粋な女の子である。昔図書隊の人に助けてもらつたことから図書隊に入ろうと考えることを最優先し、情にもろく、恋愛のことになると奥手になってしまふというのは女子ならばどこか共感できるのではないだろうか。笠原は、前述の通り猪突猛進である。自分が正しいと思った道を真っ直ぐに行く、悩み、躊躇するところに共感がもてたからである。戦いの時には本を守ることを最優先し、情にもろく、恋愛のことになると奥手になってしまふということを最も優先し、情にもろく、恋愛のことになると奥手になってしまふ

うというのは女子ならばどこか共感できるのではないだろうか。笠原は、前述の通り猪突猛進である。自分が正しいと思った道を真っ直ぐに行く、悩み、躊躇するところに共感がもてたからである。戦いの時には本を守ることを最優先し、情にもろく、恋愛のことになると奥手になってしまふ

ういうのは女子ならばどこか共感できるのではないだろうか。笠原は、前述の通り猪突猛進である。自分が正しいと思った道を真っ直ぐに行く、悩み、躊躇するところに共感がもてたからである。戦いの時には本を守ることを最優先し、情にもろく、恋愛のことになると奥手になってしまふ

ことはさておき、本を読むのも大変なことだし、時間もかかってしまうことがあります。ですが、好きな本を一つでも見つけられたら、読書は難しいことはなくなります。本を読むことで文章力が少しずつ成長していく笠原の恋心はこの本の見所であると言えるだろう。



1年生大健闘!
2年生もたくさん
読んでね。

図書館貸出

ベスト5

(H21年4月～H22年1月13日現在)

- | | | | |
|----|------|-------|-----|
| 1位 | 3年5組 | 中村 藍莉 | 38冊 |
| 2位 | 3年3組 | 今間 晶子 | 30冊 |
| 3位 | 1年2組 | 渋谷 宇範 | 22冊 |
| 3位 | 1年5組 | 高橋佳代子 | 22冊 |
| 5位 | 1年3組 | 栗田亜也加 | 21冊 |

2010. 2 . 25

読書の楽しみ



高橋 直子 先生

今日の帰り、本屋
に立ち寄ってみて
は？

氣の向くままに本を手にする

今年度から図書館指導に携わっているが、「読書欲」のない人たちに「本を読め」というのも、数年前までは、私も全く読書をしなかつたからだ。だから、本を読む気のない人の気持ちはよく分かる。しかし、そんな私も今では、読書は趣味の一つになつた。なぜそうなつたのか、強いて言えば「ある本と出会つたから」だろうか。有名なタイトルのその本を何となく買い、何となく読んでみた：そして止まらなくなつた。文庫本で五巻まであるその本をあつと、いう間に読み上げた。初めて「読書つておもしろい」と思つた瞬間だった。

私は「国語の先生」だから、小難しい本を読んでいると思われているかもしれないが、 ん、 読みたいと思って読み始めた本が「ハズレ」だったことはある。

こればかりは完全な『趣味』の世界だ。

ういう意味では期待を裏切る本を読んでいるかもしれない。でも「読書」ってそれでいいと思つてい る。

名著の伝記 <その14>

モモ 時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしげな物語
ミヒヤエル・エンデ著(岩波書店)

大きな都会の街はずれに、相手の話を聞く才能を持った小さな女の子・モモが住み着きます。モモに話を聞いてもらうと、どんなにも自分の中に潜んでいる驚くような考えが浮かび上がってきました。しかし、穏やかな人々の暮らしに「時間貯蓄銀行」の灰色の甲斐をもたらすものが現れます。人生の無駄遣いを防ぐために、たちが人間の時間を盗むために介入してきます。いつしか街の人々は、時間節約に躍起になり、どんどん不機嫌に奴隸感覚で暮らす日々が続ります。モモは、不思議なカメ・カシオペイアとともに盗まれた時間を人々に取り戻すべく長い道のりを歩き出します。

「人間には時間を感じ取るために心というものがある。そして、もしその心が時間を感じとらないようなどきには、その時間はないもおなじだ。」時間とは何かを問い合わせ、私達に警告している作品です。児童文学の枠にとどまらず、大人にも愛さる名作、心の余裕がなくなつたとき手にとつて見ませんか？

新・図書委員会！？

図書委員長 野 部 千 夏

今年度の図書委員会は、メンバーも先生も変わり、新・図書委員会と言ってもおかしくはない状態でした。考えてみると、今までで一番大変だった図書委員メンバーでした。

委員会活動の内容を詳しく知っているのは継続して図書委員となった三年生だけです。一つ一つ、「こんなのがあったよね？」と確認しながら、なんとか活動していくことができました。また、別の係の班になった人も多く、経験していない仕事の内容が曖昧で、最初は仕事がなかなか進まず大変でした。その中でも大変だったのは、やはり文化祭です。「材料はどこで買ってたの？」「お金はどうしてた？」といろいろ分からぬことがあったり、何を作ればいいのかもさっぱり分からず大変でした。また、予算も減り、節約しながら展示を作っていました。昔の余った紙や、家から材料を持ち寄ったりして展示ができるようなものでした。今回の反省を活かして来年度の委員メンバーにはスムーズに準備が進められるように頑張って貰いたいです。

三年生が卒業した後、今までの図書委員の活動内容を知っている委員がすごく減ります。内容がわかる人を中心として、全体で協力してほしいと思います。さらには、なるべく継続して委員になり仕事をしてくれる人が入ってきて欲しいなと思います…。

編集後記

今回初めての編集の仕事をやってみて、大変だなと思ったことは、どのように構成すれば読む人が見やすくなるかです。イラストと文のバランス、見開きの構成など工夫しているので、ぜひ皆さん読んでみてください。

(1年 佐藤)